



# 高円宮記念JFA夢フィールド

今回は、千葉県千葉市美浜区幕張公園内において令和2年1月に竣工した日本サッカー界の一大活動拠点となる高円宮記念JFA(公益財団法人日本サッカー協会)夢フィールドのクラブハウスについて取材してきました。



先端部が強調されたダイナミックな木装大庇。刀と薙刀からインスパイアされたデザインが象徴的です。

海岸に面した閑静な幕張公園内の遊歩道を散策していくと、海岸林として整備されたクロマツ林の中に公園施設と一体化した斬新なデザインの建築物と複数のサッカー関連施設が現れます。ここJFA夢フィールドは、主に日本代表のトレーニング拠点として、また、指導者や審判養成などを行い、サッカーに関わる様々な情報を収集・分析し、関係者へ発信していく施設となっています。

クラブハウス正面のファサードは、黒い鉄骨造の建物から軒下の出が大きく、日本建築の特徴をイメージした木装大庇がその存在を主張しています。左に向かって、そして手前に向かって伸び上がる鋭い形状に木材が等間隔に配置され、うねるような流れの構成が美しく、木の持つ柔らかな表情も見せています。板の配置は約500列。近くで見ると先端に向かって曲度が強くなり、板も少しずつ複雑な形状へと変化し、幅も徐々に広がっていきます。曲面への対応としては、最初に3Dで割付を検討して、実際に2次元で組み立て、貼り合わせた際に隙間がないか確認しながら再度3Dにフィードバックすることを繰り返して施工したそうです。



最大で約4mの板材(15mm厚)をつなぎ合わせ、軒下の曲線に合うようにトータルステーションで座標管理をしながら作業を進め、施工性の良さを追求しています。

使用されている木材は、山形県・岡山県のスギ材、建物全体で約29㎡（そのうち大庇は約14㎡）です。



建物右手にある関係者用出入口の上の庇は、一見すると目立ちませんが、左手の庇と比べて曲面変化が大きく、より複雑な割付になっていますので是非注目して下さい。



クラブハウス外観の大庇からガラス窓を通じて建物内の天井（通路側）へと板材がつながるイメージで木質化されています。

エントランスホールは、建物左手の大庇の曲線を通じてシームレスにつながるデザインになっていて、扉が開くとさらにその先にあるピッチ側へと視線を誘導する構成になっています。内装にはエントランス側からピッチ側に向けて、断面形状が異なる複雑な表情のルーバーが配置されています。エントランス側のルーバーは長く・太く・幅広で、ピッチ側のルーバーは短く・細く・幅小になっていて、ピッチ側に向かって漫画の集中線のような効果を発揮しています。

また、大庇には無節材を使用し、エントランスホールには節有材を使用している点など、要所に明確な対比を打ち出していることが分かります。JFA夢フィールドは、訪れる人たちにサッカーの魅力と合わせて、多様な表情を感じ取ることができる木材の魅力を発信しています。



エントランスホールは、大型バスが停車することを想定した天井の高さで設計されています。

